

Weekly Oil Market Review 23第10号

2023年(令和五年)

6月16日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター

電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422

〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■概況

6/1～6/7のNYMEX・WTI先物市場は70.10～72.53ドルの範囲で推移した。

6月8日は、米国とイランの核合意再建交渉が進展したとして、イランが核濃縮を一部停止する見返りに米国が経済制裁を一部解除し、原油輸出を認めるとの観測報道で、反落した。7月物終値は前日比1.24ドル安の71.29ドル。

週末9日は、中国の5月の生産者物価指数の落ち込みが市場予想を上回り、中国景気の後退が意識され、続落した。ただ、来週予定の米国の利上げ継続やOPECプラスの追加減産の状況を見極めたいとする向きも根強かった。7月物終値は1.12ドル安の70.17ドル。

週明け12日も、前週末に続き、米を中心とする景気後退懸念から、3営業日続落した。米国では利上げ継続観測が高まつた。また、ゴールドマンサックスが短期の原油価格見通しを下方修正したことも下落要因。7月物終値は、前営業日比3.05ドル安の67.12ドル。

13日は、中国人民銀行が景気刺激策として短期金利を引き下げるとともに、米国では金利引き上げ見送り観測が高まり、両国の需要拡大期待から、4営業日ぶりに反発した。この日発表のOPEC月報が今年の中国需要の伸びの見通しをわずかに上方修正したこと、安値拾いの買いも多かったことも、値上がり要因。7月物終値は2.30ドル高の69.42ドル。

14日は、米国連邦準備制度理事会(FRB)が金利引き上げを一時停止したものの、追加利上げが示唆されたこと、また、米国石油在庫が原油・製品とも積み増し報告で、先行き需要後退懸念から、反落した。ただ、国際エネルギー機関(IEA)

月報による今年の石油需要の見通しの上方修正が、下値を支えた。7月物終値は、前日比1.15ドル安の68.27ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、6月1日～7日の間、71.60～75.60ドルの範囲で推移した。6月8日76.00ドル、9日74.70ドル、12日73.10ドル、13日71.80ドル、14日73.90ドルで推移した。

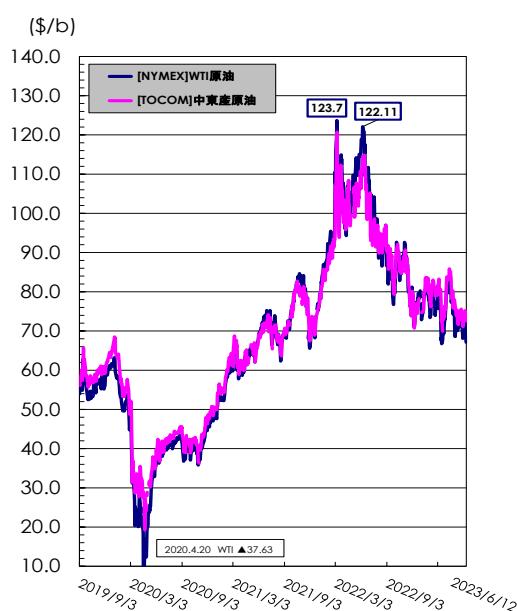
対ドル為替レート(1TM)は、6月1日～7日の間、138.99～140.18円の範囲で推移した。6月8日140.00円、9日139.15円、12日139.43円、13日139.70円、14日140.07円で推移した。

財務省が6月15日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は、73,787円で、前旬比93円高、ドル建て86.54ドルで前旬比0.5ドル高、為替レートは1ドル/135.56円だった。また、5月の原油輸入平均CIF価格は、73,504円で、前月比4,148円高、ドル建て86.33ドルで前月比2.91ドル高、為替レートは1ドル/135.37円だった。

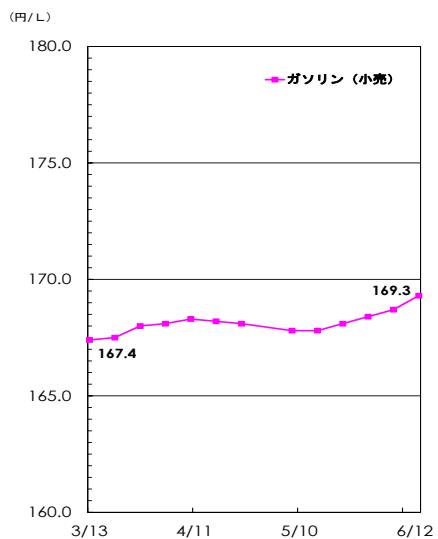
そのような中で、6月12日時点の価格は、ガソリンが前週比0.6円の値上がり、軽油も同0.6円の値上がり、灯油は同7円の値上がり(18リットルベース)であった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は169.3円であった。

また、6月15日からの燃料油価格激変緩和補助金は20%縮減となり、15～21日の補助金の支給額は9.6円(従来ベースの補助額12.1円)となった。

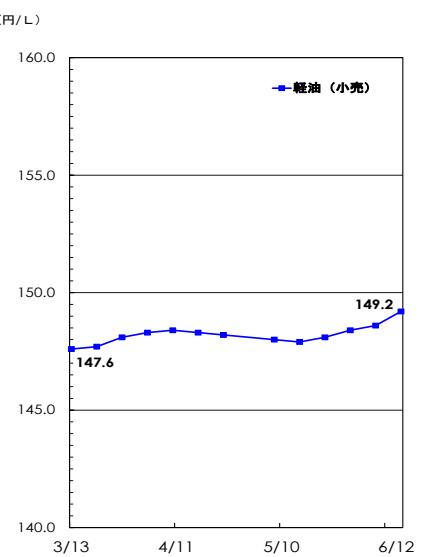
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	6/4～6/10	2,275	▲ 117	▼ -
	トップ稼働率 (%)	"	61.4	▲ 3.2	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	6/10	11,166	▼ -400	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/12	72.56	▼ -2.16	▼ -39.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/12	67.12	▼ -5.03	▼ -53.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	86.54	▲ 0.50	▼ -21.28
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	73,787	▲ 93	▼ -13,847
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	135.56	▲ 0.61	▼ -6.34
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/12	140.43	▲ 0.75	▼ -4.43



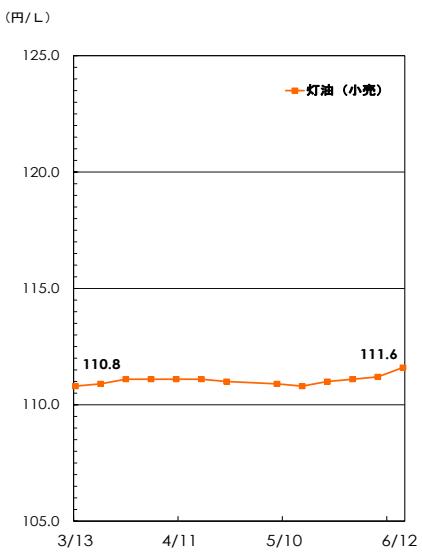
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/4 ~ 6/10	802	▲ 35	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	765	▼ -87	▼ -
	輸出	"	50	▲ 50	▲ -
	在庫	6/10	1,640	▼ -14	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/6 ~ 6/12	77.8	▲ 1.3	▼ -2.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/6 ~ 6/12	73.0	► 0.0	▼ -10.1
	(TOCOM/中部)	6/12	79.0	▲ 4.5	▼ -4.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/12	169.3	▲ 0.6	▼ -1.9
	※業転、先物価格は税抜き価格				



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/4 ~ 6/10	568	▲ 35	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	568	▲ 159	▼ -
	輸出	"	70	▲ 45	▼ -
	在庫	6/10	1,361	▼ -70	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/6 ~ 6/12	77.6	▲ 0.9	▼ -2.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/6 ~ 6/12	79.2	▲ 0.7	▼ -15.6
	(TOCOM/中部)	6/12	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/12	149.2	▲ 0.6	▼ -1.9
	※業転、先物価格は税抜き価格				



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/4 ~ 6/10	120	▲ 15	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	86	▲ 10	▲ -
	輸出	"	0	▼ -21	▼ -
	在庫	6/10	1,433	▲ 34	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/6 ~ 6/12	78.2	▲ 1.1	▼ -1.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/6 ~ 6/12	75.1	► 0.0	▼ -4.9
	(TOCOM/中部)	6/12	80.0	▲ 4.7	▼ -2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/12	111.6	▲ 0.4	▼ -1.3
	※業転、先物価格は税抜き価格				



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(6月8日～14日)のWTI石油先物市場は、8日の71.29ドルで始まり、週明けの12日まで、米中の景気後退懸念、米・イラン核交渉の進展観測等で、3営業日続落した。その後13日は中国の利下げ発表、米国の利上げ見送り観測等で反発したが、14日は反落し、68.27ドルで終わった。

6月14日発表の9日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油在庫が790万バレル増と、市場予想(50万バレル減)に反する積み増しとなった。

EIAによると、6月12日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.4セント値上がりの1ガロン3.595ドル(133.2円/㍑)と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比0.3

セント値下がりの1ガロン3.794ドル(140.6円/㍑)と8週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月9日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比1基増の556基と6週ぶりの増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年6月4日～6月10日に休止したトップ能力は97.6万バレル/日で、前週に対して18.1万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は227.5万kLと、前週に比べ11.7万kL増加。前年に対しては42.1万kLの減少。トップ稼働率は61.4%と前週に対して3.2ポイントの増加、前年に対しては8.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.6%増、ジェット/3.1%減、灯油/14.0%増、軽油/6.6%増、A重油/5.4%増、C重油/19.4%増。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比0.0万kL減)。軽油の輸出は7.0万kL(前週比4.5万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて灯油、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は76.5万kL(対前週10.2%減)と2週振りに減少した。ジェット2.4万kL(対前週55.7%減)、灯油8.6万kL(対前週13.1%増)、軽油

56.8万kL(対前週38.8%増)、A重油16.8万kL(対前週4.0%減)、C重油16.9万kL(対前週4.6%増)。

(単位:千kL)

	今週 (6/4 ~ 6/10)	前週 (5/28 ~ 6/3)	前週比
ガソリン	765	852	▼ -87 (-10%)
ジェット燃料	24	54	▼ -30 (-56%)
灯油	86	76	▲ 10 (13%)
軽油	568	409	▲ 159 (39%)
A重油	168	175	▼ -7 (-4%)
C重油	169	161	▲ 8 (5%)
合 計	1,780	1,727	▲ 53 (3%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月10日時点の在庫はジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは164.0万kL、前週差1.4万kL減。前年に対しては5.9万kL多い。

灯油は143.3万kL、前週差3.4万kL増。前年に対しては8.4万kL多い。

軽油は136.1万kL、前週差7.0万kL減。前年に対しては8.1万kL多い。

A重油は68.8万kL、前週差0.5万kL減。前年に対しては1.3万kL少ない。

C重油は191.6万kL、前週差1.5万kL増。前年に対しては7.4万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (6/10)	前週 (6/3)	前週比
ガソリン	1,640	1,654	▼ -14 (-1%)
ジェット燃料	797	754	▲ 43 (6%)
灯油	1,433	1,399	▲ 34 (2%)
軽油	1,361	1,431	▼ -70 (-5%)
A重油	688	693	▼ -5 (-1%)
C重油	1,916	1,901	▲ 15 (1%)
合 計	7,835	7,832	▲ 3 (0.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月6日～6月12日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、元売会社の円建て原油コストは、0.5円値上がりしたものと見られる。上記コストに先週の補助金額10.0円を加え、今週の補助金9.6円を差し引いた、6/15～6/21の実質的な元売会社の卸価格は0.9円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月6日～12日の製品スポット市況は、5月30日～6月5日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、その他の取引・油種で値上がりした。

直近週(6/6～6/12)の陸上スポット価格平均値は、前週(5/30～6/5)比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/6～6/12)に、前週(5/30～6/5)比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.7円の値上がりだった。

(RIM)		(単位:円/㍑)	
[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/6～6/12)	前週 (5/30～6/5)	前週比
ス ポ ツ 価 格	レギュラー	77.8	76.5
	灯油	78.2	77.1
	軽油	77.6	76.7

(TOCOM)		(単位:円/㍑)	
[期近物/終値 [平均]]	今週 (6/6～6/12)	前週 (5/30～6/5)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	73.0	73.0
	灯油	75.1	75.1
	軽油	79.2	78.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/6～6/12実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	→ 0.0	▲ 0.6
灯油	▲ 1.1	→ 0.0	▲ 0.6
軽油	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.8
A重油	▲ 0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の169.3円、軽油も0.6円高の149.2円、灯油も18.1円ベースで7円高の2,008円(1㍑ベースでは0.4円高の111.6円)。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは34都県、横ばいは4府県、値下がりは9道府県だった。全国最安値は岡山県の163.9円、その次は徳島県と兵庫県の164.0円であった。他方、最高値は長野県の179.1円だった。最も値上がりしたのは香川県と東京都(前週比1.9円高)、横ばいは長

崎県など4府県、最も値下がりしたのは大分県(同0.6円安)だった。

次回調査時(6/19)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (6/12)	前週 (6/5)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	169.3	168.7	▲ 0.6
	灯油	111.6	111.2	▲ 0.4
	軽油	149.2	148.6	▲ 0.6

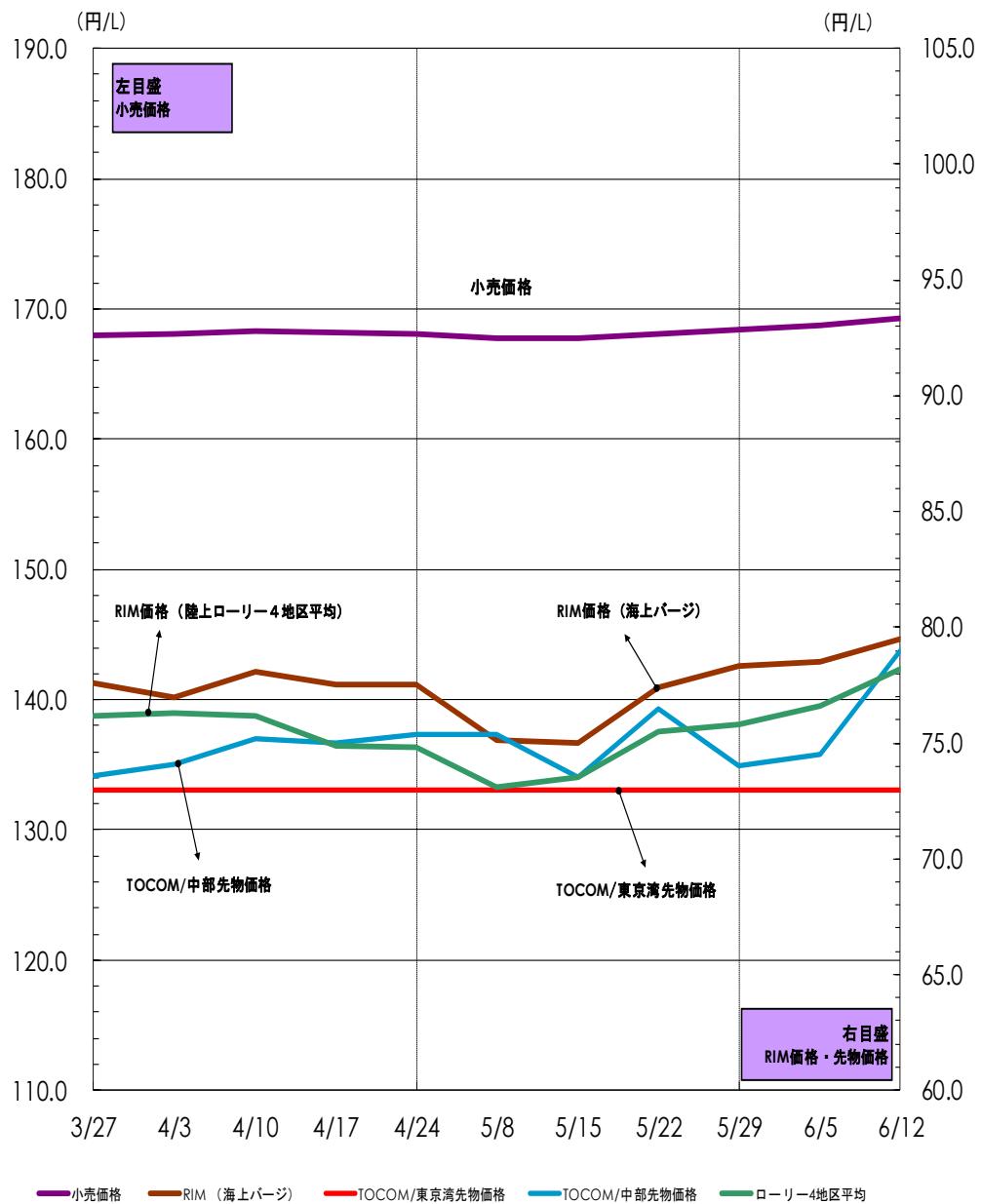
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/3/27 ~ 2023/6/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローラー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2023第11号）の公表は、6/23（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。